

以下の文章中には、ねつ造された石器またはそれに基づく論考や記述をしている部分があります。取り扱いには十分ご注意ください。

1999年度宮城県考古学会活動報告

宮城県考古学会幹事長 高倉敏明

本県考古学会が設立して初めての総会は、昨年設立総会を行ったと同じ仙台市博物館の1階ホールを会場に「総会・研究発表会」として開催された。総会を開催するに当たって、企画幹事会を中心として会員45名（一般35、学生15）からなる運営委員会を組織して準備作業や当日の運営が行われた。

5月16日(日)午前10時から役員会が開催され、総会提出議案の審議が行われた。総会は11時から始まり、桑原滋郎会長の挨拶につづいて議長団の選任が行われ、議長に柳田俊雄、副議長に高橋栄一、書記に赤沢靖章、阿部篤会員が選出された。議案は、平成10年度の事業報告、収支決算報告、平成11年度の事業計画（案）、収支予算（案）、さらに役員の補充、細則の追加改正（会員の死亡に関する事）について提案され、それぞれ原案どおり承認された。

午後からは講演会と研究発表会が行われた。講演会の講師は本会の副会長でもある東北大学文学部教授須藤隆先生にお願いし、「弥生時代の東北地方の一その文化と社会」と題して、長年にわたる弥生文化研究の成果を90分に短縮して講演された。その後、会員による5本の研究発表が行われ、16時30分高倉幹事長が閉会の挨拶を行って盛会のうちに終了した。総会出席者は、190名（会員249名）であった。

遺跡調査成果発表会は、古川のパレット大崎を会場として12月11日(土)に開催された。事例発表15件、資料報告8件が公表され旧石器時代の上高森遺跡から近世の仙台城址まで各時代にわたる調査結果が公表された。参加者は250名におよび、この時会員数は301名に達した。来年度の会場は、大和町のまほろばホールとすることを確認して終了した。

会誌刊行事業については、計画どおり「宮城考古学」創刊号が平成11年5月に発行された。内容は、本会設立に記念講演を頂いた芹沢長介先生の「旧石器とともに50年」の記録を巻頭論文として掲載し、会員の投稿論文3編、速報3編の他に宮城発掘物語1件、1998年度主要発掘紹介6件と考古学会設立経過及び総会報告などが掲載されたい。

また、会員への情報交換機関誌である「連絡紙」については、第5号～第8号を発行している。

研究部会活動に関しては、昨年度に立ち上げられた「古墳時代研究部会」の着実な活動があげられる。2ヵ月に1回のペースで研究会が行われている。

一方、役員会や各幹事会活動に関しては、役員会を4回、代表幹事会を4回開催しており、総務・企画・会誌・連絡誌の各幹事会は随時開催されて会務を執行している。詳細は活動記録を参照されたい。

最後に、特記されることとして、仙台城の復元計画と遺跡保存の問題について役員会で議論を行い、「仙台城本丸石垣修復と良櫓再建計画に関する要望書」を仙台市長と教育長に提出したことが挙げられる。遺跡保存に関する問題については、「考古学の発展と普及に寄与する」ことを設立目的とする本学会として、今後も関心をもって行きたいと考えている。

活動記録

平成11年

- 4月10日 総務幹事会（10年度決算、予算作成、会員名簿整備）
古墳時代研究部会第2回研究会
- 15日 総務幹事会（会員記録の整理）
- 30日 第1回代表幹事会（会誌創刊号の発行、10年度収支決算、総会・研究発表会について）
- 5月8日 総会・研究発表会運営委員会
- 16日 第1回役員会（総会提出案件、会誌の配布・販売について）
総会・研究発表会（会場：仙台市博物館）
会誌「宮城考古学」第1号発行
- 23日 日本考古学協会総会で会誌を販売
- 6月5日 古墳時代研究部会第3回研究会
- 16日 連絡紙幹事会（今年度の発行計画、第5号の内容について）
- 29日 第2回代表幹事会（総会報告、入会・会費納入状況、会誌販売状況、平成11年度事業の進捗について）
- 8月7日 古墳時代研究部会第4回研究会
- 9月15日 連絡紙第6号発行
- 10月2日 古墳時代研究部会第4回研究会
- 20日 企画幹事会（遺跡調査成果発表会について）
- 24日 会誌幹事会（会誌第2号について）
- 28日 第3回代表幹事会（遺跡調査成果発表会の内容、会誌第2号、連絡紙、入会・会費納入状況などについて）
- 11月15日 連絡紙第7号発行

- 12月5日 古墳時代研究部会第6回研究会
 11日 平成11年度宮城県遺跡調査成果発表会（会場：古川市パレット大崎）
 第3回役員会（遺跡調査成果発表会及び12年度の開催地について、会誌第2号）

平成12年

- 1月8日 会誌幹事会（会誌第2号について）
 23日 第4回役員会（会誌第2号の編集状況、12年度の総会・研究発表会について、幹事会報告、仙台城の復元計画と遺跡保存の問題について）
 28日 仙台城本丸石垣修復と良櫓再建計画に関する要望書を仙台市長と教育長に提出する。
 2月17日 企画幹事会（12年度の総会・研究発表会について）
 3月7日 第4回代表幹事会
 29日 企画幹事会（総会・研究発表会について）

宮城県考古学会入会案内

宮城県考古学会では、宮城県を中心とする考古学の調査研究の発展と普及を図り、会員相互の親睦を深めるため、下記の活動を行っています。

1. 年1回の総会、研究発表会の開催
2. 年1回の宮城県遺跡調査成果発表会
3. 会誌「宮城考古学」の発行
4. 年4回の「宮城県考古学会連絡紙」の発行
5. 研究部会の開催（随時）

宮城県の考古学に関心のある方、宮城県在住者に限りませんので是非ご参加ください。また、会員の皆様にはお知り合いの方々に入会をお誘いください。

入会の方法

入会申し込みは、氏名（フリガナ）・住所・電話番号（FAX番号）と職場名・同住所・同電話番号（FAX番号）を明記の上、年会費（一般4000円、学生2500円）を郵便振替にてお送りください。

郵便振替 02210-1-41792 宮城県考古学会

なお、総会開催時にも会場で入会を受け付けております。

古墳時代研究部会活動報告

古墳時代研究部会事務局 高橋 誠明

古墳時代研究部会の主な活動は研究会の開催です。平成11年2月に行われた第1回研究会を皮切りに偶数月の土日に会を開き、これまで6回の研究会を行なってきました（平成12年1月現在）。各回とも20人を超す会員が集まり、時には大議論となり盛会に会を重ねてきています。研究会開催の目的は古墳時代に興味のある人が集まり、いろいろな意見を発言できる生き活きとした場の設定にあります。今後とも皆さんに興味を抱かせるような研究会を開いていきたいと考えておりますのでお気軽にご参加ください。

これまでの活動

- 第1回研究会 平成11年2月27日(土) 16:00～18:00 東北学院同窓会館
 「宮城県における5世紀の土器様相」高橋誠明
 「宮崎町大塚森（夷森）古墳の靱について」松本和子
- 第2回研究会 平成11年4月10日(土) 16:00～18:00 東北学院同窓会館
 「古代史研究と「豪族居館」」大平 聡
 「「豪族居館」研究の現状」藤沢 敦
- 第3回研究会 平成11年6月5日(土) 16:00～18:00 東北学院同窓会館
 「土器研究の方法」辻 秀人
 「山元町合戦原古墳群の測量調査」岩見和泰
- 第4回研究会 平成11年8月7日(土) 13:00～16:00 古川市文化財管理センター
 「宮崎町大塚森古墳発掘調査見学会」東北学院大学考古学ゼミナール
 「古墳時代の大崎平野」高橋誠明
- 第5回研究会 平成11年10月2日(日) 16:00～18:00 東北学院同窓会館
 「粘土槨～その出現と終焉①～」大谷 基
 「石巻地方の古墳時代前期の様相」芳賀英美
- 第6回研究会 平成11年12月5日(日) 10:00～12:00 仙台市民会館
 「関東系土器の研究の現状」佐藤敏幸
 「関東系土器について－仙台平野－」村田晃一
 「大崎平野における関東系土器の様相」高橋誠明
 「関東系土器が出土した墳墓について」岩見和泰

代表 辻 秀人

事務局 〒983-0821 仙台市宮城野区岩切字台屋敷94-1 高橋誠明方

☎090-3364-8255（通じないときが多々あります。ご用件は留守電に。）

「宮城考古学」投稿案内

1. 投稿原稿の種類

投稿原稿のの種目と規定ページ数は次のとおりとします。

- | | |
|-------|---|
| 論文 | 本文、挿図、写真、表などを含め、20ページ以内。
内容を400字程度にまとめた論文要旨と英文タイトルをつけてください。なお、著者の依頼があれば会誌幹事会でも英文タイトルを作成にします。 |
| 研究ノート | 研究史や現状における課題などを整理して問題提起する内容のものおよび、試論、予察、着想、実験的研究などの短論文。本文、挿図、写真、表などを含め、14ページ以内とします |
| 速報 | 注目される発掘調査の成果など。10ページ以内。 |
| 資料紹介 | 4ページ以内。 |

※1 1ページはB5版横組で、横40字×縦32行とします。版面は横13cm、縦20.5cmになります。本文は13級（9ポ）明朝体、註、引用文献は11級明朝体の文字になります。

※2 提出原稿は、ワープロ原稿が望ましいのですが、手書き原稿でも受け付けます。本文、写真、挿図、表等の割付を指示した完全原稿で提出をお願いします。ワープロ原稿の場合は、フロッピーもあわせて提出してください。投稿される会員には御連絡いただければ、会誌幹事会から割付用紙を送ります。

原稿割付にあたっては、論文の表題と執筆者の氏名のスペースとして6行分、論文要旨のスペースとして10行分を見込んでください。

註は本文中に（註1）と表記し、文末に註の内容を記載してください。引用文献は（近藤義郎 1959）、（須藤 隆 1987 a）のように文中に著者と刊行年次を記載し、文末に文献目録を記載してください。文献目録は著者の五十音順に作成してください。文献の記載は著者、刊行年次、文献名、掲載雑誌名、巻、号数（著書の場合は著書名、出版者名）、引用ページの順で記載してください。同一著者で同一年刊行の複数の著作がある場合には刊行月順に小文字のアルファベットを付けてください。

（引用文献の記載例）

近藤義郎 1959 「共同体と単位集団」『考古学研究』第6巻第1号 pp13～20

2 「宮城考古学」投稿案内

須藤 隆 1987 a 「東日本における弥生文化の受容」『考古学雑誌』第73巻第1号 pp1～42

須藤 隆 1987 b 「東日本における弥生文化の成立と展開」『弥生文化の研究』4 雄山閣 pp201～216

※3 図版は製図したもので、台紙に貼り、トレーシングペーパーを上にかけて、縮小サイズと書き込み文字を表示して提出してください。図版の割付に際しては、図のタイトル分のスペース（仕上がり幅5mm）を確保してください。なお、図等の割付について御不明な点は事務局まで問い合わせてください。

※4 原稿の採否、掲載順序については役員会にお任せください。

原稿及び写真図版は返却します。

※5 著者校正は1回とし、その後は事務局で行います。

2. 投稿資格

投稿は会誌幹事会からの依頼原稿を除き、原則として宮城県考古学会会員に限ります。共著の場合は著者の内1人は宮城県考古学会会員であることを条件とします。

3. 原稿締め切り 平成13年1月末日

※原稿の採否は平成13年2月末までに著者に連絡します。また、原稿多数の場合は次号掲載となる場合もありますので、御了承ください。

4. 抜き刷り

論文、研究ノートを掲載の場合は、本誌1部と抜き刷り30部を進呈します。抜き刷り30部以上希望する方は30部を超える分について実費負担となります。原稿投稿の際に希望部数を会誌幹事会までお知らせください。

資料紹介、速報などで掲載が4ページ以上にわたる場合は、抜き刷りを希望する場合に作成いたします。希望の有無を会誌幹事会まであらかじめお知らせください。

5. 原稿送付先

〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号

東北学院大学文学部史学科辻研究室気付

宮城県考古学会会誌幹事会

電話 022-721-3262 (直通)

メールアドレス tuji@tscc.tohoku-gakuin.ac.jp

編集後記

宮城考古学第2号をお届けします。ご講演の内容を論文の形でまとめてくださいました須藤先生をはじめ、原稿をお寄せいただきました会員の皆様に御礼申し上げます。おかげさまで大幅なボリュームアップとなり、内容もさらに充実してきたと自負しています。次号にも多くの原稿を期待しています。(T)

宮城考古学 第2号

発行 宮城県考古学会 会長 桑原滋郎

2000年5月14日

郵便振替口座 02210-1-41792

印刷 今野印刷株式会社

〒984-0041

仙台市若林区六丁の目西町4-5

Tel. 022 (288) 6123

MIYAGI KOKOGAKU

(THE MIYAGI ARCHAEOLOGY) No.2

CONTENTS

ARTICLES

- Tohoku District in the Yayoi Period *Takashi Suto*.....(1)
Keyhole-Shaped Burial Mounds in the Lower Drainage of the Abukuma River (no.1)
Atsushi Fujisawa.....(25)
The Northern Frontier of Mutsu Province in Asuka and the Nara Period
Koichi Murata.....(45)
The South Gate of Tagajo Fort and the North-south Main Street in the
Ancient Provincial City of Tagajo *Shigeo Kuwahara*.....(81)
The Rear Structure of Rock Walls of the Main Citadel of Sendai Castle
and Their Changes *Hitoshi Agatsuma*.....(91)

FIELD REPORTS

- Measurement Survey Report of the Kassenbara Burial Mounds
Hiroki Aoyama, Kazuhiro Iwami, Tomoko Suzuki, Yoshio Tahara, Atsusi Fujisawa.....(111)

MATERIALS OF ARCHAEOLOGICAL RESEARCH

- On a Gilt Gong (Kei) with an inscription of 5th year of Bunmei (1473 A.D.)
of the Bukkyoji Temple in Natori City *Shinichiro Ishiguro*.....(129)

ARCHAEOLOGY IN FOREIGN COUNTRIES

- An Essay on Archaeology in Bulgaria *Sanae Itami*.....(135)

PROFILE OF AN MUSEUM

- The Tohoku History Museum – as information source in the Northeast district –
Tohoku History Museum.....(145)

MIYAGI EXCAVATION STORY

- Archaeology in Miyagi Prefecture from 1955 to 1964 *Masaki Kudo*.....(149)

INTRODUCTION TO MAJOR EXCAVATIONS IN MIYAGI PREFECTURE

- IN 1999(157)

The Kamitakamori Site, The Kakura Shell Midden, The Shinkanamura Site,
The Koriyama Site, The Tagajo Fort Site, The Monoojo Fort Site, The Ijijo
Fort Site, The Nittanosaku Fort Site, The Ichikawabashi Site, The Hara Site,
The Hoshuninmae Site and The Yoshuen Site, The Sendai Castle

Activities of the Society in 1999